

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 池田高等学校 学校運営協議会 (第2回)

2 開催日時 令和7年11月12日 (水) 13:30~15:30

3 開催場所 池田高等学校 視聴覚室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した

4 参加者

会長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校顧問
副会長	西川 昭	地域商工会議等代表
委員	高橋 利行	池田町教育長
	岡田 勝彦	神戸町教育長 (欠席)
	河村 茂雄	池田町立池田中学校長
	井上 誠	神戸町立神戸中学校長
	國枝 正義	池田町上田区長 (欠席)
	高橋あゆみ	神戸町立北小学校読み聞かせボランティア
	安田 正博	垂井町青少年県指導員
	香田 英一	育友会長

学校側

鈴木 彰	校長
武藤 真理	教頭
田村由美佳	事務長
吉田 一臣	教務主任
三輪 智子	生徒指導主事
古山 克幸	進路指導主事

5 会議の概要 (協議事項)

○学校評価アンケートの結果について

(1) 内務部 (教務) 関連

意見1: 職員が学び続ける姿勢は極めて重要である。生徒が教職員を見たときに「憧れる」・「この先生のようになりたい」と感じることは、学習意欲の向上につながる。教職員が努力する姿を示すことが生徒の学びを促進すると考える。

意見2: 授業改善に向けて、郡内の小中学校では学校規模が縮小し、同じ教科同士で学び合う機会が減少している。大規模校では教科部が成立するが、そうでない学校が増えているのが現状である。今後、郡内や近隣の学校と中高連携を図りながら、研究を深める機会を設けることが望ましい。

(2) 生徒部（生徒指導・特別活動）関連

意見 3 : ヘルメットについてはどのような指導がなされているのか。

⇒ 基本的にはかぶるように指導しているが、中には、4月には被っていたが周りを見ながら徐々に被らなくなってきた生徒がいるのも現状。

(3) 外務部（進路指導）関連

意見 4 : 1年生の頃からキャリア教育を考えることは極めて重要である。3年生になってから進路を検討するのでは遅い。1年生の段階で、自分がどの方向に進みたいのかを外部講話などを通じて感覚的に掴み、2年生では具体的な進路の選択肢を把握することが望ましい。そうすることで、保護者も自分の子どもの希望を理解し、適切な助言ができるようになる。

○全体協議（意見交流）

意見 5 : 探究活動では、生徒に自信を持たせる活動が根底にあることを感じ、大変意義深いと考える。また、ディベートでの、肯定側と否定側という二つの立場の接点を設けることは、極めて重要であると感じた。将来、生徒たちが社会に出た際に、現実とのギャップを感じないよう、こうした力を育むための仕組みづくりが必要であると強く思う。

意見 6 : 周辺地域では、交通安全上危険な箇所があるが、探究活動で、このような危険箇所を取り上げ、生徒たちに安全な判断力を養う取り組みを行うことは非常に有意義であると考える。また、体育大会等を参観する中で、生徒たちの体力や筋力の現状がどのような状況にあるのかと考える場面があった。こうした課題について、探究活動等で取り上げてはどうか。

意見 7 : 学校からの情報発信については課題がある。学校側も保護者に活動を知ってもらいたいと考えているはずであり、多少の手間はかかるが、簡単な報告をこまめに発信することで、保護者は学校の様子を理解できると考える。学校からの情報発信をより積極的に行うことが望ましい。

意見 8 : 探究活動の一部として行われたディベートの中で、いかに納得できる形で意見を伝えるかという点が重要であることを学んだ。教室が温かい雰囲気であったのは、探究活動を通じて、同じ目的を持ち、相談しながら努力する仲間がいるからである。攻撃ではなく理解を目指し、論破ではなく納得を促す話し方を学ぶことは、人間関係を醸成する上で極めて重要である。

意見 9 : 探究学習を深めるには基礎学力が不可欠である。基礎学力がなければ、活動が表面的なものにとどまり、真の探究にはならない。したがって、基礎学力の定着は小中学校の重要な使命である。小学校は小学校なりの、中学校は中学校なりの取り組みを整理し、体系的に進める必要があると改めて認識した。

意見 10 : 情報発信の方法については課題があるが、地域や保護者に学校へ足を運んでもらう機会を設けることが重要である。また、教育活動に保護者を関わらせる仕組みを検討し、学校の実態を理解してもらうことが必要である。

意見 11 : 高校生の力は非常に大きい。したがって、こうした探究活動を継続し、さらにレベル

アップを図ることが重要である。前年度の成果を次年度に引き継ぎ、互いの発表やレポートを通じて学びを積み重ねる仕組みが必要である。

意見 12: ディベートにおいて、肯定側と否定側の役割を交代することは有意義であると考える。役割を変えることで、より深い学びが得られると考える。社会において一つの結論を出すためには、相手の立場や考え方を理解することが不可欠であり、その体験を通じて学ぶことができるからである。ディベートは勝敗を競うものではなく、相互理解を深める絶好の機会であるため、今後は役割交代を取り入れることが望ましい。

意見 13: AI は非常に便利であり、容易に答えを提示する。しかし、それに依存するだけでは、思考力や日本語力、さらには基礎学力が低下する恐れがある。コピー＆ペーストで答えを得るだけでは、学びの本質を失うことになる。したがって、AI に負けない思考力を育成するため、基礎学力の徹底を強く求めたい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、まず授業参観及び生徒との交流を行った上で、生徒及び保護者を対象とした学校評価アンケート（7月実施）の結果分析・説明を軸に、委員の方々から忌憚のないご意見を得た。本校の教育活動や生徒の様子を肯定的に評価いただいた一方、さらに踏み込んだ現状分析に基づくいっそうの発展・改善への期待を感じる協議であった。